

スリナム月間情勢報告 (2019年4月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 改正選挙法が施行され、各政党は供託金を支払うことが義務付けられた。小政党には不利との批判が出された。
- イスラム開発銀行総会に出席したウーフダド財務大臣は電力関連プロジェクト等への借款に署名した他、別途世銀からも30年ぶりの融資を受けることとなった。
- アディーン副大統領及びポラック＝ビゲリ外務大臣がガーナを訪問し、アクラのスリナム大使館の開館式が行われるなど、協力強化が図られた。

2. 内政

- 1日付スリナム紙は、3月29日アディーン副大統領はスリナムが25億スリナムドルの債務を抱えていることは問題ではない、2千億スリナムドル相当の資源量を有しており、いつでも返済できると述べたと報道。
- 2日付スリナム紙は、改正選挙法が施行され、各政党は供託金を支払うことが義務付けられ、選挙で議席を取れない場合、供託金は没収されることとなったと報道。
- 9日付スリナム紙は、19年度予算法案の第一次審議は5日終了したと報道。
- 9日付スリナム紙は、6日農民党は、アマフォ元社会問題大臣率いる革新と民主主義のための政治運動人民党と正式に合併したと報道。
- 10日付スリナム紙は、9日ソージャン農漁業大臣は、就任後1年で辞任を申し出た、辞任の理由は明らかでないが、同省内の指導権争いとみられる、ポータッセ大統領が辞任を受け入れたかは不明と報道。
- 10日付スリナム紙は、計画省はカリブ開発銀行と協力して、8日から5月22日まで行政管理能力の強化研修を開始したと報道。

3. 経済

- 5日付スリナム紙は、4日ウーフダド財務大臣は、モロッコでのイスラム開発銀行年次総会の際に、同行代表との間で、4,130万米ドルの発電、送配電システム拡大の借款に署名した、同行傘下の国際イスラム貿易金融公社との間で、2,500万米ドルの輸入信用供与及び今後3年間の7,500万米ドルの戦略的パートナーに署名した、更にOPEC国際開発基金事務局長と会談

し、同基金は発電、送配電システム拡張プロジェクトに2,600万米ドルの融資を承認したと報道。

●9日付スリナム紙は、中央銀行はユーロの需要を理由に6百万ユーロを市中に放出したが、これによりユーロの対スリナムドル安が起きたと報道。

●11日付スリナム紙は、11日ウーフダド財務大臣とサイド世銀中南米カリブ地域総局国別代表は、サラマッカ運河修復プロジェクトに関する3,500万米ドルの借款に署名した、スリナムが世銀から借款を受けるのは30年ぶりと報道。

●15日付スリナム紙は、同日中央銀行は経営危機に陥っているスリナム為替銀行に関し、流動性預金は十分にあり、業務継続に問題はないと述べたと報道。

4. 外交

●15日付スリナム紙は、ポラック＝ビゲリ外務大臣を代表とする関係省庁代表はEU代表团との間で、12日コトヌー協力協定に基づく第8回政治対話を実施し、スリナム及びEUの政治、経済情勢等につき協議したと報道。

●24日付スリナム紙は、19～23日アディーン副大統領、ポラック＝ビゲリ外務大臣他がガーナを訪問し、外交旅券査証免除、外交協力、2重課税防止及び投資保護に関する4つの覚書に署名した他、アクラのスリナム大使館開設式が行われた他、両国間の合同委員会設置が合意され、関係強化が図られると報道。

●29日付スリナム紙は、27日15人の医学生が奨学金を得てセルビアに到着し、同学生は語学研修の後、医学を学ぶ、授業料、滞在費等はセルビア側が負担すると報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。